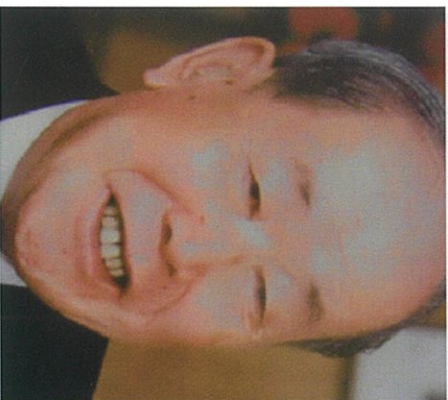


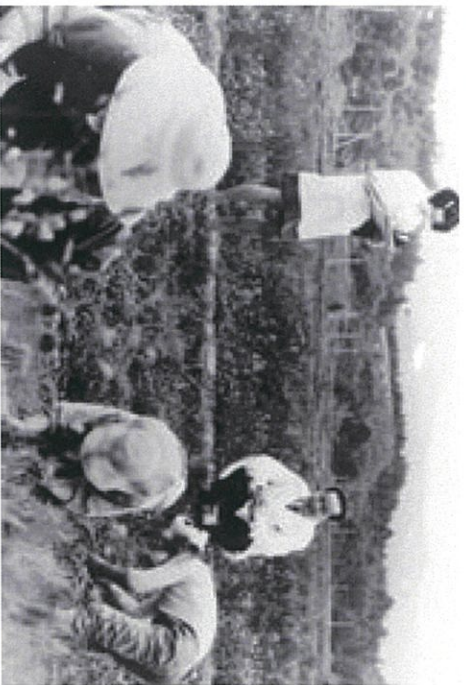
映画 医(いや)者として

映像と証言で綴る農村医療の戦後史



若月俊一医師(写真左)とは、「農民とともに」の精神で地域住民の中に積極的に入り込み、無医村への出張診療など住民と一体となった運動としての医療実践に取り組む。また外科医として先駆的な脊椎カリエスの手術などもおこない精力的に発表した。

「予防は治療に勝る」との考えのもと自ら脚本を書いた演劇などをセットにした出張診療をおこない衛生活動の啓発に努めた。特に八千穂村では現在の健康診断のモデルとなった全村一斉健診を早くから行った。農民の生活に密着したフィールドワークや研究をおこない、気づかず型、がまん型の潜在疾病の概念を確立し、日本のみならずアジア諸国の農村医療のモデルとなっている。医療の民主化をめざし、約半世紀にわたり地域での医療実践に尽くした。



解説

長野県佐久市(旧南佐久郡)佐久総合病院。昭和20年3月、東京からやってきた医師・若月俊一(1910-2006)。出張診療、集団検診、啓蒙演劇…など「農民とともに」をスローガンに、多くの農民の命と健康を守り、信州の寒村地域に農村医療の礎を築いてきた。その実践につらぬかれた志は、いまでも多くの人々の心をひきつけている。1950年代から30数年にわたり病院内映画部が記録し続けてきた貴重な16ミリ映像フィルムと、当時を知る関係者らの証言とともに、一本の映画としてよみがえる。(作品資料より)

映画を見た感想

昭和20年代から長野県の佐久総合病院においての若月医師によってなされた数々とは、訪問診療や集団検診など今では当たり前かも知しくは現在においても最先端の医療を行っていた。今までの作品を観るまで知りませんでした。すごすぎる！長野県がいろいろな意味で長寿の地だということ、納得です。若月俊一医師の取り組みはすごく素晴らしいとしか言いようがありません。福祉の職を目指す者の一人としてその精神、しっかり刻み込みました。

日時 平成30年8月11日(土)

開場13時30分 開始14時 終了16時

場所 新城文化会館小ホール

入場料 1000円 (一般)

主催 新城を学ぶ会

後援 愛知東農業協同組合 新城ライオンズクラブ

新成ロータリークラブ 新城市 中日新聞社

東海日日新聞社 東愛知新聞社

問合せ先 090-3831-0876(平澤)